

Manifest 2024

【概要版】

誰もが笑顔で暮らせる、
愛すべきふるさと・小田原へ

～地域自給圏の創造に向けて～

2024.4.7

おだわらを
拓く力

誠実、信頼
そして希望

加藤けんいち



加藤けんいち
公式サイト



マニフェスト
本編 ver.1.0



みらいのおと
目指す地域像



加藤けんいち

1964年、小田原生まれ。中学2年生までに両親を失うも、小田原高校、京大法学部を卒業。経営戦略、教育、農林水産業、商業などに携わるかたわら、災害ボランティアや市民活動にも積極的に取り組む。2008年小田原市長に初当選。2020年退任。現在は、耕作放棄地を開拓したワイン葡萄や有機レモンの栽培、大学での講義、広域ネットワーク作りなどに汗をかく。

活動資金へのご協力をお願いいたします

2008年、加藤けんいちが、全活動が無報酬のボランティア、資金もすべて個人寄付という、まれに見る選挙運動で勝利しました。私たちはこの「おだわら力」を信じ、再び、ゼロから出発します。

おだわらを拓く力(加藤けんいち後援会)

〒250-0045 小田原市城山1丁目6の36
TEL : 0465-20-6657
FAX : 0465-20-6636
Mail : powers@mbn.nifty.com
対応時間：月・水・金10:00-16:00
4月14日以降はすべての曜日で対応する予定です。

小田原の力を信じて、もう一度、立ち上がる

人口減少、少子高齢化、地域コミュニティの弱まり、社会インフラの老朽化、地域経済の衰退、貧困や格差の拡大、公共部門の財政悪化・・・日本社会はまるで「課題先進国」です。まさに危機的な状況ですが、私たちはこの「危機」を「悲劇の終着点」から「未来への転換点」に変えなければなりません。

多彩な地域資源や豊富な人材に恵まれた小田原は、可能性の宝庫です。私たちは、日本が直面する課題を乗り越え、誰もが安心して暮らせる地域社会のお手本となる力を持っています。

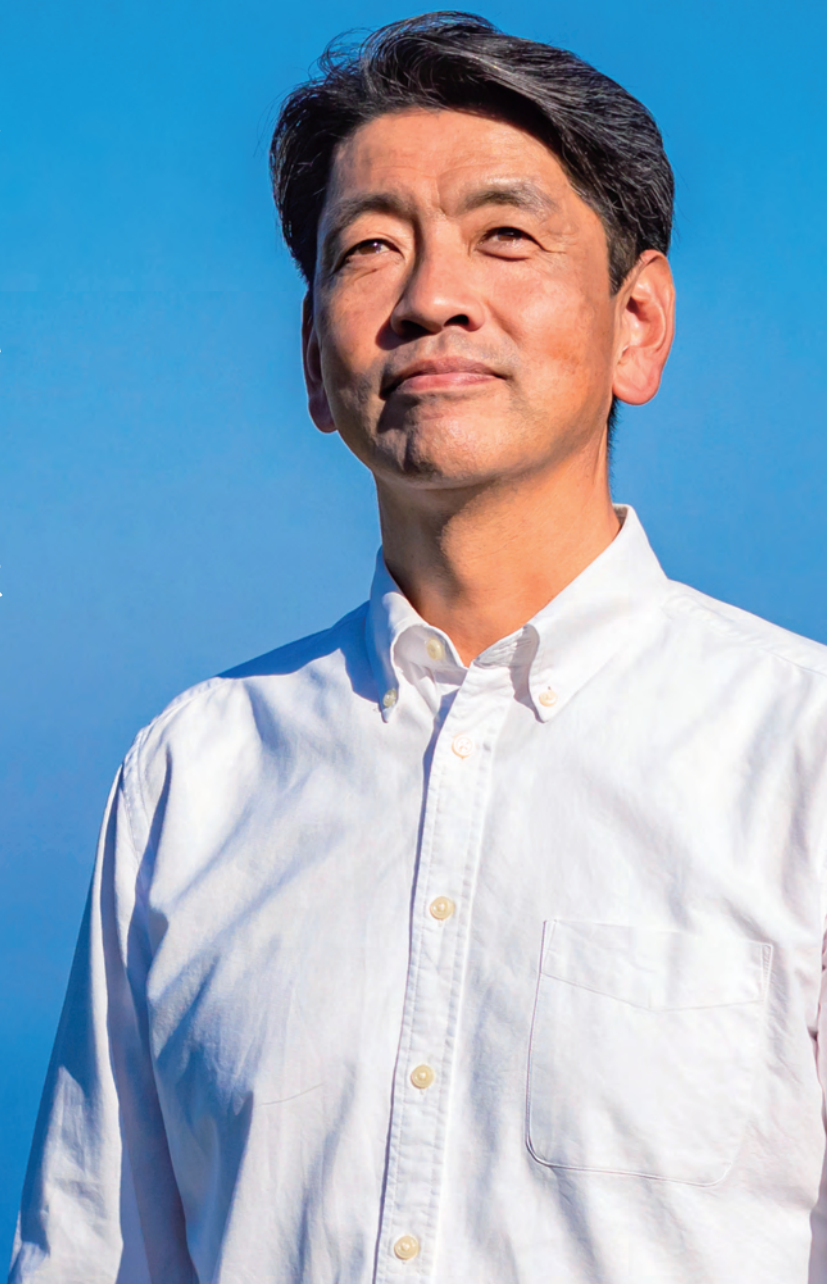
しかし、現在の小田原市政は、昭和型の開発政策に終始し、財政の健全性も失われ、それどころか、連日のように不誠実な市政の実態がメディアを騒がせています。

今こそ、私たちは、誠実と信頼、そして希望を取り戻さねばなりません。

「歴史の峠」を踏み越え、確かな未来へと続く道をみなさんとともに拓く。「人にとっての幸せ」「社会のほんとうの豊かさ」に思いをいたす。大地に立ち、人の力を信じて、小田原市政の再生に全身全霊で取り組む。

私は、最後の最後まで、持てる力のすべてを燃焼し尽くす覚悟です。

加藤 憲一



誰もが笑顔で暮らせる、愛すべきふるさと・小田原 ～「いのちを守り育てる地域自給圏」の創造～

新しい市政では、「いのち」が最優先。未来への希望と痛みを分かち合う社会の基盤を固め、前市政時にあと一步のところまで来ていた、豊かな自然資源・人的資源を活かした持続可能な循環型経済(サーキュラーエコノミー)への道筋を完成させます。

重要テーマとその取組(主なもの)

自然と人間の絆を結びなおす

- 公・共・私が一体となって遊休空間を活用する「環境再生プロジェクト」の再開
- 生ごみ循環などを活かした「ゼロエミッション(ゴミを出さない街づくり)」
- 鬼柳桑原地区の工業団地化を取りやめ、国内屈指の「メダカ保護区」として水田を保全
- 自伐型林業により、荒廃山林を整備・再生、木材資源を商品化しムダなく活用
- 高級食材から生活食材に視点を交える～「美食のまち」から「健やかな食のまち」へ

弱い立場にある人たちに日本で一番やさしい街へ

- 東部・西部における各種機関を循環する「いのちの交通ネットワーク」の整備
- 学校での生理用品支給、高齢者向けの紙おむつ支給の継続、子ども紙おむつも無料に
- 発達支援が必要な子どもたちを絶対に見捨てない幼稚園・保育体制の整備
- 保護動物の里親支援、避難所への同伴～「コンパニオン(ペット)と共にある社会」
- 性的マイノリティへの支援制度における2市8町の広域での連携と整合化

「新しい成長」への積極的なチャレンジ

- 少年院跡地は人的資本の拠点に～IT・AI企業の集積、先駆的人材教育の共同施設など
- 消費者も生産者もwin-winになる「地域支援型農業(Community Supported Agriculture)」
- 再生可能エネルギーの電源開発を推進し、収益を地域に還元する「地域公社」の構築
- ソーラーシェアリングの展開～農業と再生可能エネルギーの相乗効果で経済を耕す
- 「財源なき開発」から「社会基盤の長寿命化」へ～地元中小土木建設事業者の技術支援

学び合い、市民が主役になれる小田原を

- 分野別市民会議を創設することで草の根からの「民主主義の再生」を
- 大学や自治体とでネットワーク化した「市民向け社会教育プロジェクト」の始動
- 子どもが帰りたくなる街を残そう～地域の活動を体験する義務教育カリキュラム
- 主権者教育の充実～税の使い方から民主主義を学ぶ「子ども議会」の創設、予算確保
- いつでも、どこでも、誰でも、身近で学べる「市民の自主学習サークル」への支援

人が出会い、つながり、支え合う、コミュニティづくり

- 「ケアタウン構想」の補強と再整備による、支え合う地域社会の更なる充実
- 地域に丸投げにしない～コミュニティ拠点となる学校への地域担当職員の増員
- 住民が提案する街づくり～地域プロジェクトへの活動支援金制度の創設
- 農と食を題材に子どもも大人も学び育つ「エディブル・スクールヤード」の展開
- おだわらの誇り～歴史的町並みの再生、祭礼文化や芸能、山車や神輿の保存継承への支援

世代別の主な取組

若者世代

- 奨学金返済支援等、若者の活躍支援制度の充実
- 若手世代の学び合い・交流・つながりの場づくり
- 小田原を拠点とする若手事業者やクリエイターの招致
- ソーシャルワークの拡充とヤングケアラーへの支援強化
- 国際医療福祉大学・小田原短期大学との連携強化

子育て世代

- 地場有機農産物の給食活用と段階的給食費無償化
- 「子育て孤立」を解消するための地域支援体制の構築
- 新住民のコミュニティ参加に向けたマルシェ等の開催支援
- 子どもたちが子どもらしく過ごせる・遊べる場づくり
- 女性活躍を支えるための男性の育休制度の充実

シニア世代

- 多世代で支え合い、分かち合える、出会いの場の形成
- 一人暮らしや身寄りのない高齢者の「終活」支援
- 食生活を通じた健康づくり活動、フレイル対策
- 徒歩生活者の暮らしに欠かせない既存商店街の支援
- 高齢者や障がい者が安心して通行できる道づくり

主要分野における政策的な補強(抜粋) ※詳細な取組の全容については、「マニフェスト本編」をご覧ください。

1 自然環境 健やかないのちと暮らしの土台づくり

- 全市をあげて取り組む気候変動対策
- 生物多様性の基盤である水と森の再生
- 「おだわら環境志民ネットワーク」の「環境協会」への進化
- 国府津～曾我、早川～片浦、萩窪～久野の荒廃農地再生
- 魚が棲む豊かな海づくりに向けた各種の取り組み支援

4 地域コミュニティ 支え合って生きる「ふるさと」を

- 各地区へのコミュニティソーシャルワーカーの段階的配置
- 自治会等地域組織の負担軽減へ 役職・委託事業の整理
- 移住の先にある定住化への官民連携による対策強化
- 多世代が気軽に集い合える地域の居場所づくり
- 「子ども食堂」から「みんなの食堂」への発展支援

7 文化・スポーツ 大切なものを、受け継ぎ、創造する

- 図書施設の機能強化(新刊増、コミュニティ機能強化)
- 歴史的町並みの再形成に向けた修景支援と利活用
- 三の丸ホール管理運営体制の再検討と事業者選定
- スポーツ施設の長寿命化と維持更新、利用環境の整備
- 市内に点在する「街なか美術館」的な施設整備への支援

10 まちづくり 必要な機能を、全域にバランスよく

- 地域コミュニティ拠点となる学校への地域担当職員配備
- 少年院跡地＝公園的空間の創造やIT・AI系企業集積
- 小田原駅西口ロータリーの安全確保と機能合理化
- 徒歩生活高齢者を支える商店街への支援
- 子どもたちのための街なか公園やコモンスペースづくり

2 人づくり 「人の力」を徹底的に高める

- 小田原が全国に誇る市民活動へのさらなる支援
- 子育て世代・生産世代と地域社会の繋がりづくり
- プロダクティブ・エイジング＝高齢者の知見・能力の活用
- 障がいのある人たちの自立支援と就労先の拡大
- シニア世代が要介護状態から自立するための支援

5 福祉・医療 「いのちを大切にす小田原」の全面化

- 介護事業者への財政支援(待遇改善・諸手当)の検討
- 「親なきあと」も安心な障がい者施設・サービスの拡充
- 福祉健康部職員の増強、保健師の確保と適正配置
- 新市立病院開設と民間医療機関との連携強化
- 在宅医療・在宅介護を推進する多職種の連携強化

8 平和・人権 「人の幸せ」と「社会の豊かさ」を

- 平和を創る教育や体験プログラムの再開
- 戦後80年(2025年)における複数の記念事業の実施
- 市役所の管理職における女性比率30%の達成
- 性的マイノリティ(LGBTQ)への支援体制・制度の整備
- 人権侵害に対するオンブズパーソン制度の創設

11 社会インフラ 長寿命化を基本に、計画的・着実に

- 長寿命化対策、地域密着型土木建設事業者との協力
- 高田浄水場全面改修による持続的な水道事業の運営
- 事業者と連携した新たな公共交通サービスの導入検討
- 幹線道路整備事業の早期推進における県との協力
- 財政負担を考慮したうえでの公共施設の再整備

3 子育て・教育・子育て すべての「いのち」が花開くまち

- 「子どもが育っていくまち」のトータルデザインの策定
- 自主保育活動の支援、「森のようちえん」認可制度創設
- 発達支援の必要な子を受け入れる幼保の体制整備
- 教員が生徒の学びや成長と向き合える働き方への改革
- 学校施設を、原則、各自治会連合会に1校残す

6 地域経済 地に足を着け、内側からの充実を

- 都市近郊農業・有機農業の作付け拡大と担い手育成
- 小田原魚市場再建に向けた施策、財源確保
- 小田原産木材の市場拡大への支援強化
- 最新技術シーズをもつスタートアップ企業の立地支援
- 環境価値を重視する企業をフルサポートする体制整備

9 防災 災害が多発・激甚化する時代に備えて

- 情報伝達手段の充実～防災無線更新、衛星電話網
- 学校の避難所機能整備(太陽光発電、トイレ改善等)
- 市役所の災害対策機能、避難所運営体制の強化
- ペットとの同行・同室避難の受け入れ準備
- 広域消防体制の更新、松田分署の再整備

12 行財政運営・分かち合い 今こそ「至誠・分度・推奨」

- 「政策監」の廃止、職員配置の適正化、組織秩序の回復
- 現在ストップしている行財政改革の再開、強力な推進
- ハラスメントの根絶、外部機関による徹底調査
- デジタル分野の総点検と市の情報のオープンソース化
- 県西地域全体の持続可能性向上に向けた連携強化